

校長通信

Morifun

<全校礼拝より>

新約聖書 使徒言行録 第9章 1節~9節 17節~19節

「サウロの回心」というタイトルですが、このサウロという人はキリスト教を迫害した人ですが、復活したイエスと出会う神秘体験をして、クリスチャンになった人です。お読みした最後のところに、「目からうろこのようなものが落ち」とありますが、諺の「目から鱗」の由来でもあります。

ここで使われている「回心」という表記ですが、心の向きが変わることを意味しています。方向転換としての回心でもあります。もう一つ同じ読みで「改心」という表記がありますが、こちらは反省するとか悔い改めるといった時に使います。

聖書の「回心」はどこに対して方向転換するかというと、それは神様あるいはイエス・キリストのいる所に対して心の向きが変わることです。サウロの心の向きがイエス・キリストの方になり、クリスチャンになった、そういうことを「サウロの回心」と言っています。

このような「回心」というのは、劇的な変化というか一気に変化が生じる、180度変化が起こることかもしれませんが、私たちも、普段そういう風に一気に180度変わりたいのにな、と思うことがあるかもしれま

せん。または誰かに対して、この人変わってほしいな、と自分が望むように一気に変わってほしいと思うこともあります。サウロのように「回心」の経験をする人もいるかもしれませんが、実際は、ほとんどそういうことは起こらず、むしろゆっくり少しずつ変わっていくことも、とても大切なことです。

臨床心理学者の河合隼雄さんは、その数ある著書の中で「ちょっと変わる」とはすごいことだと述べています。ちょっと引用してみます。「話がちょっと横道にそれるようですが、僕はこういう仕事につく前に、自分の分析というのを5年くらい受けています。5年間やって人間がどのくらい変わるかということ自分でよく知っているわけです。あんまり変わらないんですよ。やっぱり。しかし、あんまり変わらないけれど、どこか変わってくる。その、どこがどのくらい変わって、それがどんな意味をもつかということ、自分で自覚してないといけません。そして『あんまり変わらない』と言っていますけど、その『ちょっと変わる』ということがどんなに偉大なことか。」

一方で、「180度変わる」のは、実はそんなに大変なことではない。180度の変化は割合生じやすく、そしてまた180度の変化は元に戻りやすいと河合さんは述べておられます。河合隼雄さんはこれを風見鶏のイメージでたえています。屋根の上に取り付けられていて、風向きによってクルリと向きをかえる風見鶏ですね。「風見鶏は、風向きによってクルッと180度向きを変える。風見鶏にとって、180度向きを変えることは平気である。でも風見鶏が5度だけ向きを変えようと思ったら、とてつもなく大変なことだ。そのように、私たちも『ちょっと変わる』というのはすごいことなのだ」と河合隼雄さんは述べています。

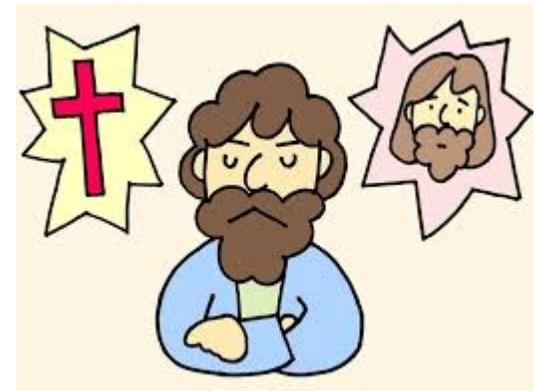
言われてみれば、確かにその通りだなあ、と思わされます。私たちは普段180度変わることを目指しがちだし、自分が180度変わったと思いたいものです。ではなぜ180度変わりたいと思いたいのかというと、その方が自分にと

って楽だから、という部分があるのかもしれませんが。河合隼雄さんが述べるように、私たちにとって少しずつ変わることは、具体的な課題を見つけて、その課題に取り組んで、そして変化していく。勉強や部活動の練習なんかも、人間関係も、そういう具体的な課題に取り組んで、ちょっとずつ変わっていくのは、面倒なことでもあるし、苦労も多いことです。「180度変わる」場合は、それらの面倒な作業を一気に飛び越えてゆることができるので、私たちにとって魅力的なのです。しかしその180度の変化は少しずつ変わる過程を経ないで、何かのきっかけでまた元に戻りやすいものであるのかもしれませんが。

そういうことを踏まえると、今日ご紹介した「回心」、一気に180度変わるというより、少しずつ変わっていくことが大事なのではないか。皆さんの目標とか夢とか、そういうものが一気に変わっていくというより、少しずつでも変わっていくのが大事なのではないかと思えます。そういう過程の中に喜びもあるし、もちろん辛いこともあります。その少しずつ変わってゆく過程の中にこそ尊いものがあり、また生きてゆくことの喜びもあるのではないのでしょうか。

イエス・キリストは私たちといつも共にいて、より良い在り方へと少しずつ変わってゆくその力を私たちに与えてくださる存在です。「あなたにはそれができる」、と主イエスは私たちを励まし、力づけてくださっています。

(9月6日 花巻教会牧師 鈴木道也先生)



新約聖書 ガラテヤの信徒への手紙

第3章26～29節

キリスト教の大切な儀式に洗礼式というものがあります。キリスト教徒になるための儀式で水を使います。昔は川で、ヨルダン川で全身頭までざぶんとつかるものでした。これは新しく生まれるという象徴的な意味がありました。昔は水道もないですし、地域では水は貴重なものでした。大事に保存しておいた水を使って、その水に手を入れて頭に三回振りかけるものもありました。三回というのは父・子・精霊の三位一体の神を表します。現在はこういう形で洗礼式を行うところが多いですが、中には、全身頭までつかるものもあり、私が務める花巻教会では全身水に浸かる洗礼式です。

今日お読みした言葉は、大昔二千年前に洗礼式で読み上げられたものと言われています。特に印象に残るのは、28節の「そこではもはや、ユダヤ人もギリシア人もなく、奴隷も自由な身分の者もなく、男も女もありません。」ユダヤ人もギリシア人もなくというのは、民族や国籍は関係ないということ。奴隷も自由な身分の者もなくというのは、社会的身分や職業は関係ないということ。当時は奴隷制度というのがありましたが、奴隷もしくはその主人たちも同じように洗礼を受ける。男も女もないというのは、そういった性別の違いも関係ないということ。つまりイエス・キリストに結ばれるというのは、そういったすべてのことから自由になるという意味でした。当時の人々には新鮮な言葉として響き、まさに希望の光のように感じて多くの人が洗礼を受けたのでした。

もちろん自分の出身や国籍、思想・信条とか、自分を構成する要素に誇りを持つことは大事なことですが、それは全てではありません。一方でその要素が自分自身を縛ってしまったり、相手にレッテルを貼ってしまったりするのはよくあることです。例えば、国籍で人を判断したり、職業で、性別で判断してしまうこともあります。他にも年齢や学歴とかで人を判断していることもあります。その人を構成する要素の一つをもって全てのように

その人を判断してしまうというのは控えるべきことですね。難しい言葉で言えば、属性で人を判断する、そういった属性で人を判断することはときに差別や偏見につながってしまうこともあります。人格という言葉がありますが、いわゆるその人自身を見る、その人と接するというのが大事になります。

もう一つ私が大事だと思うのは、同じ一人の人間として受け止めること、民族とか職業とか性別ではなく、自分と同じ一人の人間として互いに受け止めてみる。同じ神様に愛された一人の人間として受け止める。神の目から見て一人一人が大切な同じ一人の人間として受け止める。世界でただ一つのかけがえのない存在、そういう視点に常に立ち返ることが必要です。クリスチャンにならないかではなく、色んな宗教も超えて、一人一人がかけがえのない私という存在になっていくこと、それが神様の願いなのではないでしょうか。

現在の私たちの社会では、人にレッテルを貼る、人を属性で判断するといった行為が色んなところで起こっています。いかにそういう状況を乗り越えていくか。それぞれ一人の人間として認め合っていくことが大事なことだと思います。

(9月20日 花巻教会牧師・鈴木道也先生)

<部活動の活躍>

時機を逸してしまった関係で夏休みからの分をお知らせします。コロナ禍でも行動制限がなく、各種大会等も無事行われています。それでも感染者は多少減ってきましたとはいえ、まだまだ第7波は衰えてはおらず、競技会に参加する生徒の皆さんも、気の抜けない日々が続いています。本校ではありませんが、せっかく全国切符を勝ち取りながら棄権したり、練習不足から不本意な成績に終わったりするチームや選手もいます。これからまだ大会は続きます。全国への挑戦もあります。より一層気をつけながら更なる精進を続けてほしいと思います。ガンバレ、盛附!!

○インターハイ

柔道部男子団体 1回戦3-1 京都先端科学大附属
2回戦1-4 作陽 (岡山)

男子個人 100kg級 山藤光星 第5位(準々決勝進出)

60kg級 石綿温人 1回戦 66kg級 勝田隆暖 1回戦

81kg級 山田煌晟 2回戦 90kg級 中村陸玖 1回戦

女子個人 78kg 超級 石川奈七子 1回戦

陸上部 3000m 障害 天瀬海斗 予選敗退

○金鷲旗高校柔道 男子団体 4回戦 1人残り高松商

○県北・北盛岡地区高校演劇研究発表会 優秀校(1位)

脚本賞「化学者の夢」

○県高校軽音楽発表会

優秀賞 金木犀(3年チーム)「八月の空」

○柔道県高校1,2年体重別選手権

1年男子 73kg級 1位 伊藤旬 3位 白野陽士

90kg級 1位 佐々木優大 2位 伊藤光翔

100kg級 1位 三浦志斗

2年男子 60kg級 1位 市ノ渡大誠

66kg級 1位 小田祐輝 100kg 超級 2位 浅田唯斗

女子 57kg級 一戸柚 3位

○啄木の里ふれあいマラソン大会2022

10km30歳未満男子 7位 天瀬海斗

5km 一般男子 3位 田中佑弥

5km 一般女子 1位 木野下奈々

○岩手県高校陸上新人大会

【男子】 3000m障害 1位 菊地冬磨 2位 中村凜 4位

大宮大和 5000m 1位 佐藤誠悟 4位 佐藤凜

1500m 3位 熊谷泰晟

【女子】 800m 4位 佐藤花 1500m 5位 佐藤花

(以上7名東北大会出場)

○秋季高校野球岩手県大会

2回戦 2-0 盛岡 準々決勝 4-2 水沢

準決勝 6-7 花巻東 3位決定戦 8-6 一関二

(東北大会出場)